

神秘の鍵と魔法の扉

cocoratte

雪が枯れ野を舞っていた。と、そこに旅人がひとり。

とそこに風乙女ことシルフが月光とともに舞い降りて。

「あなたは疲れているのね？」

「そうだ」と彼はいった。

「ならば案内しましょう。魔法の扉へと」 そのためには、神秘の鍵が必要。

翌朝、ほうほうの体で生まれ故郷へと帰ってきた、彼はその夢のことを娘のココットに話した。

ココットはシルマリルの町の鉄道案内人をしている。彼女の魔法は人を笑顔にさせること。

そして、それから時間が経ち、彼女は神秘の鍵を探さねばならなくなった。すなわち、風乙女の導きのままに。

魔法の扉を開けるために。

「さよなら」と誰かがいった。

神秘の鍵を使い、魔法の扉を開けたものは、ただ一つの願いを適える。という。

その魔法と引き換えに。

「真意の鍵は誰でも持っているのよ」ト風乙女がいう。ココットに。つまり、人を愛する魔法をココットが失うこと。

「愛とは不思議なものね」とココットは風乙女こと、シルフにいう。

愛こそが神秘の鍵。

神秘の鍵を使えば一つずつ愛を失う。

それが魔法を失う。ということ。

雪が枯れ野を舞っていた。とココットとシルフはその男を助け出した……。